

風に出会う

黒川岳



全力で風に出会いにいきましょう。

全力といっても、あなたが出会いたい風によっては体の力を抜いたり、じっと静かに待ち続けたりする必要もあるかもしれません。

このワークショップでは、「これだ!」と思える風(かぜ)に、「これだ!」と納得できる形で出会えるように、各々の方法で準備をして風に出会おうとしてみます。

## ワークショップの内容

日数は最低3日を要します（各回の日程が離れても可）。

日程が増えると、下記の第2回、第3回に割く時間を増やすことができます。

### 第1回

風を探しに行く（詩を書く）

ワークショップの会場周辺を歩いて、どのような場所に、どのような風が吹いているかを調べます。

どのような風が気になったか？

その風の特徴は？（強さ、方向？匂い、温度？時間変化？どんな場所で？）

その時の経験を詩に書く。

本番でどのような風に出会ってみたいか、考えてみる。

### 第2回

風に出会うための準備をする

出会いたい風の特徴について、書き出してみる。

その風と最もうまく出会えそうな方法を考える。(場所、時間、シチュエーション、自分の格好、準備物が必要か、練習は必要か、等)

自分なりの出会い方のために必要な準備を進める。

### 第3回

風に出会う（詩を書く）

各自が準備した方法を実践する。実践と並行して、その場で詩を書きとめる。

実践内容について記録する。

参加者どうしで各自の実践を報告し合う。

ワークショップ考案者より

一言で「風」といっても、その特徴はさまざまです。

外で吹いている風はもちろん、エアコンの室外機から出てくる空気や、誰かの吐息だって「風」と言えるかもしれません。あるいは、「〇〇の場所に吹いている風」というような感じで、時間的にもっと広い（長い？）視点で捉えてみても良いかもしれません。

どんな風とでも、その出会いは1度きりのもの。ひとつとして同じ風はありません。風との出会いが豊かな時間となりますように！

おまけに、考案者が旅の途中で見た風の痕跡（写真）を添えておきます。



パタゴニアの風はとても強く、木々の形を変えるほどです。木が風とダンスしているように見えます。



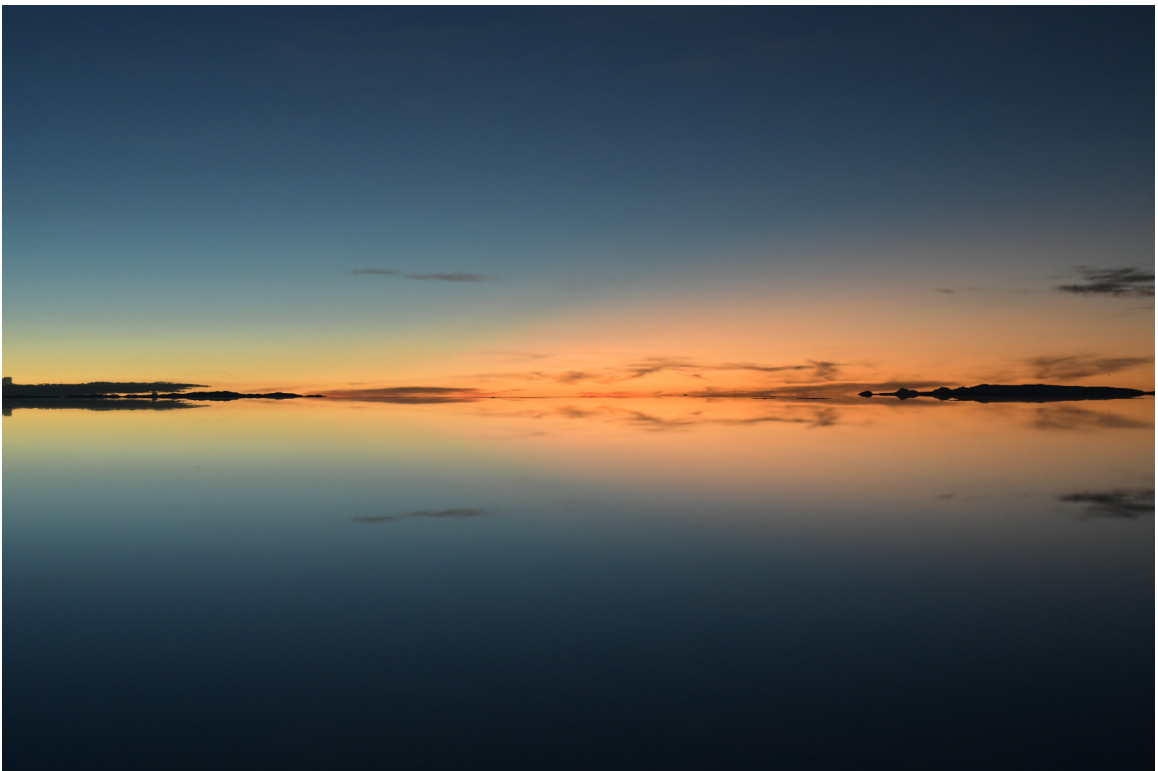
アンデスの人々の信仰の対象にもなっているコンドルは、体が重いため風が無いと十分に飛ぶことができません。風と神話の繋がりも感じられます。



竜巻が通った後は地面にくねくねした独特の線が描かれます。アタカマの先住民の間では竜巻のことを「蛇の風」と呼ぶようです。



日照りの続く砂漠はほぼ無風状態でも、時々現れる溪谷の底にはわずかにそよ風が通り抜けます。  
人々が谷底で体を冷やして一休みしている間、周りの岩に絵を描かれることもありました。



前日まで陸地だった場所は、夜の間に強風によって雨雲が運ばれ水で満たされます。すっかり風が過ぎ去って辺りが静かになると、一面に鏡張りの景色が広がります。